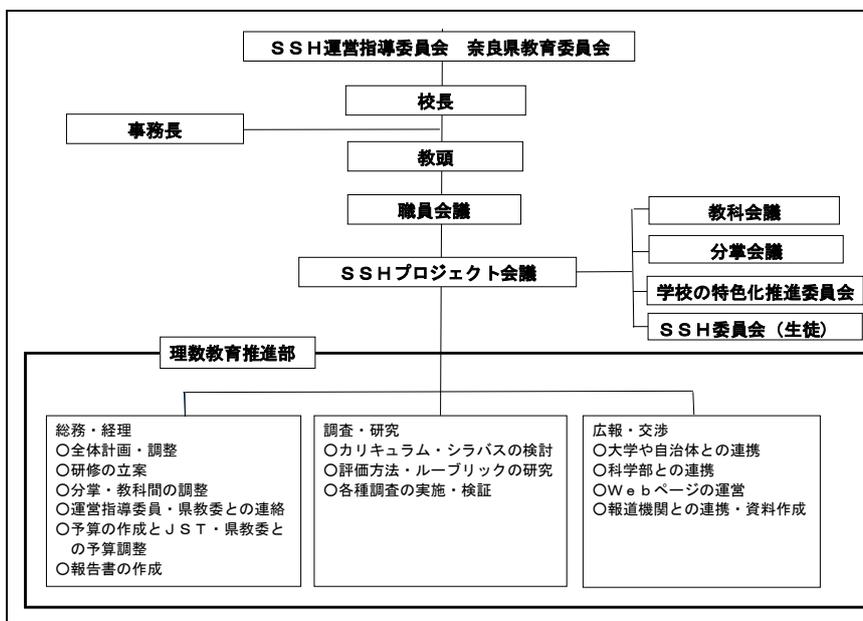


第7章 校内におけるSSH組織的推進体制

1 校内分掌

本校は、学校長の主導のもと、全職員で事業推進に取り組んでいる。以下の組織概念図に示すように、校内にはSSH研究開発の推進管理を行う「SSHプロジェクト会議」を設置し、SSH事業の円滑な運営のために「理数教育推進部」が以下の3つの役割「総務・経理」「調査・研究」「広報・交渉」を主に担っている。

【奈良県立奈良北高等学校・SSH研究組織概念図】



① SSH運営指導委員

委員・氏名	所属・職名	主たる指導・助言事業
松本 健一	奈良先端科学技術大学院大学情報科学領域教授	地域連携、探究活動
飯田 元	奈良先端科学技術大学院大学情報科学領域教授	地域連携、科学人材育成
中島 敬二	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス領域教授	地域連携、探究活動
金谷 重彦	奈良先端科学技術大学院大学情報科学領域教授	地域連携、探究活動
高橋 智彦	奈良女子大学大学院自然科学系物理学領域教授	探究活動、女性研究者育成
藤田 盟児	奈良女子大学大学院工学系工学領域教授	高大接続、女性研究者育成
田茂井 政宏	近畿大学農学部生物機能科学科教授	高大接続、科学人材育成
赤沢 早人	奈良教育大学教育学部教育連携講座教授	地域連携、授業改善・評価
竹村 謙司	奈良教育大学教育学部教育連携講座教授	地域連携、授業改善・評価
堀田 千絵	京都市立芸術大学美術学部大学院美術研究科准教授	探究活動、授業改善・評価

管理機関 奈良県教育委員会事務局 高校教育課 指導主事 菟原 郁恵・宮本 昌人
 本校出席者 校長、教頭、事務長、理数教育推進部長、理数教育推進部副部長、教務部長、
 キャリア教育部長、理数教育推進部1名、学校の特色化推進委員会委員長

② SSHプロジェクト会議

校長、教頭、事務長、理数教育推進部長、理数教育推進部副部長、教務部長、キャリア教育部長、学校の特色化推進委員会委員長・副委員長、外部連携事業等企画推進委員会2名、各教科主任、生徒代表若干名（SSH委員会）

2 組織運営の方法

研究開発について学識経験者や地域の代表者から指導・助言を受ける会議として、「SSH運営委員会」を年2回(8月・2月)、「学校運営協議会」を年2回(7月・2月)それぞれ開催した。また、研究開発の方向性を決め、事業評価を行う校内会議として「SSHプロジェクト会議」を年2回(8月・2月)開催した。教員だけではなく、SSH委員等の意見も聞き、SSH事業の活性化を図りたい。

第8章 成果の発信・普及

1 教員の発表による普及

①令和6年度奈良県高等学校理科（物理・化学・地学）学習指導研究会

（主催：奈良県教育委員会、奈良県高等学校教科等研究会理化部会）

令和6年11月14日（木）奈良県立高取国際高等学校

高等学校における理科の実際の授業を通して、学習指導上の諸問題について研究協議を行い、教員の指導力向上を図るとともに、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の在り方についての研修を深め、県内高等学校教育における理科教育の改善と充実に役立てることを目的とした研究会である。

本校教員がこの研究会において、「探究活動におけるポスターから見える生徒の変容」というタイトルで発表し本校の取組を紹介した。

②令和6年度奈良県高等学校理科（生物）学習指導研究会

（主催：奈良県教育委員会、奈良県高等学校教科等研究会生物部会）

令和6年11月18日（月）

本校教員が「SS探究基礎をベースとした学校全体の科学的で探究的な学び」というタイトルで発表し本校の取組を紹介した。

2 学校訪問による普及

①大阪府立高等学校教務研究会の研修として、約10名の教員が来校。

令和6年11月20日（水）13:00～16:00

- ・教育課程の編成について
- ・考査について
- ・探究活動全般の取組について

②神奈川県立藤沢西高等学校より2名の教員が来校。

令和7年3月5日（水）13:00～16:00

- ・探究活動全般について
- ・「理数探究基礎」の取組及び評価方法について

3 本校行事を通じての普及

①「奈良北おうちDEサイエンス」

- ・実験会の実施 令和6年7月29日（月）本校各実験室
26名の小学生が参加し、本校生徒の指導の下5つの実験を実施。
- ・「おうちDEサイエンス実験テキスト2024」の作成及び送付
今年度は13個の実験コンテンツを掲載している。
このテキストとその内容を収録したDVDを生駒市内の小中学校及び中学校に送付。

②「奈良北ちいきDEサイエンス」の実施

令和6年10月5日（土）本校大実験室

- ・親子で参加できる実験会を開催し、本校生徒指導の下2つの実験を実施。
- ・公開講座「サイエンスカフェ」を実施。本校SSH委員が自身の関心をもっている自然科学のテーマや本校の取組について自作の資料やスライドを用いて説明し、参加者からの質問に答えた。

③令和6年度スーパーサイエンスハイスクール探究活動研究発表会

令和7年2月11日（火）たけまるホール

2年生の生徒はそれぞれ「SS探究A I」「SS探究B I」「LAS探究」での探究活動を通し、「論理的な思考力」「総合的な判断力・表現力」「新しい価値を創造する力」を培ってきた。全校生徒や教員・学校関係者等の前で発表することにより、さらにこれらの能力を向上させることを目的に開催した。

日 程 12:00～12:30 受付

12:15～ 各座席で点呼

12:30～12:45 開会行事（学校長挨拶・SSH委員委員長の挨拶・来賓の紹介）

12:45～14:45 生徒研究発表 代表による口頭発表10グループ

L A S 探究	3 グループ
S S 探究A I (理数科学コース)	2 グループ
S S 探究A I (情報科学コース)	1 グループ
S S 探究B I	2 グループ
S S H タイ海外研修生徒	1 グループ
イギリス短期留学生徒	1 グループ

- 14 : 45 ~ 15 : 00 休憩・移動
 15 : 00 ~ 15 : 40 ポスター発表前半 奇数グループ 36 グループ
 15 : 50 ~ 16 : 30 ポスター発表後半 偶数グループ 36 グループ
 16 : 30 ~ 16 : 40 休憩・移動
 16 : 40 ~ 17 : 00 閉会行事 (来賓からの講評・学校長挨拶)



図1 会場入り口の様子



図2 口頭発表の様子



図3 質疑応答の様子



図4 ポスター発表の様子

○生徒の感想

- ・理系と文系で探究している内容が全然違って、理系の人はこんなところから発想をを広げ探究したんだということを知ることができて楽しかった。
- ・多くの班の発表を聞くことで様々な問題について理解ができ、さらに探究を行う上での興味が高まった。
- ・発表をすることによって、自分たちが研究してきた内容をさらに理解することができた。さらに、別の班の研究発表を聞いて、社会的な内容に対する興味関心が深まり、充実した研究発表会であったと思う。
- ・自分の言葉で何かを伝えることに少し楽しさを覚えた。質疑応答も相手の質問にしっかり答えることができて嬉しかった。
- ・自分では思いつかないユニークな発想をたくさん聞くことができて学びになった。

4 課題

今後は積極的に県内教員への普及を進めていく。理科や数学以外の教員も積極的に本校にける取組を紹介し、普及していく。